ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health , Labour and Welfare

Press Release

令和４年　３月　23 日
【照会先】健康局健康課
課長　佐々木 孝治（内線 2340）
課長補佐／女性の健康推進室長補佐　溝田 友里（内線 2979）
係長　小川 真樹（内線 2396）
（代表電話）03(5253)1111
（直通電話）03(3595)2245

報道関係者　各位

「『生理の貧困』が女性の心身の健康等に及ぼす影響に関する調査」の結果を公表します

女性への健康支援の観点から、経済的な理由で生理用品を購入できない女性がいるという「生理の貧困」に関して、問題を抱える女性の分布や心身の健康状態、日常生活への影響等についての実態や現状を調べるため、「『生理の貧困』が女性の心身の健康等に及ぼす影響に関する調査」を実施しました（令和４年２月）。

この度、調査の結果を取りまとめましたので公表いたします。詳細は、別添の結果概要のとおりです。

【調査結果のポイント】

○生理用品の購入・入手に苦労している人の分布（第1表）

「新型コロナウイルス発生後（2020年２月頃以降）、生理用品の購入・入手に苦労したこと」が「よくある」「ときどきある」のは回答者の8.1%（244人）であった。「よくある」「ときどきある」の割合は、年代別にみると30歳未満で、世帯年収別にみると300万円未満の者で、それぞれ高くなっていた。購入・入手に苦労した理由は「自分の収入が少ないから（37.7%）」「自分のために使えるお金が少ないから（28.7%）」「その他のことにお金を使わなければいけないから（24.2%）」等が挙げられた。

○生理用品を購入・入手できないときの対処法（第2表）

生理用品の購入・入手に苦労したときの対処方法として、「よくある」「ときどきある」を合計した割合がもっとも高いのは、「生理用品を交換する頻度や回数を減らす（長時間利用する等）（50.0%）」、次いで「トイレットペーパーやティッシュペーパー等で代用する（43.0%）」「家族や同居者に生理用品をゆずってもらう(39.8%)」「友達に生理用品をゆずってもらう(33.2%)」であった。

○身体的な健康状態（第3表）

生理用品の購入・入手に苦労したときの対処法として、「生理用品を交換する頻度や回数を減らす（長時間利用する等）」「トイレットペーパーやティッシュペーパー等で代用する」「タオルやガーゼ等の布で代用する」を選択した人に対して、生理用品を購入・入手できないときの身体症状について尋ねたところ、「よくある」「ときどきある」の合計は、「かぶれ」が73.5%、「かゆみ」が71.5%で、「外陰部のかゆみなどの症状」「おりものの量や色の異常」「外陰部などの発赤、悪臭」について、いずれも半数を超えていた。

○精神的な健康状態（第4表）

悩みやストレスの尺度である「K6※１」を用いて精神的な健康状態を測定したところ、生理用品の購入・入手に苦労したことが「ある」人の平均値は13.1点で、「心理的苦痛を感じている」とされる10点以上の人が69.3%であった。一方、苦労したことが「ない」と答えた人の平均値は6.4点で、10点以上は31.1%であった。

※１　K6、Kesslerら（2003）。合計得点は０～24点、得点が高いほど精神的な不調が深刻な可能性があるとされる。

○社会生活への影響（第5表）

生理用品を購入・入手できないことを理由とする社会生活への影響については、「プライベートのイベント、遊びの予定をあきらめる(40.1%)」「家事・育児・介護が手につかない(35.7%)」、「学業や仕事に集中できない（34.1%）」などが挙げられた。

○生理用品に関する公的支援制度の認知・利用状況（第6表）

居住地域で行われている生理用品の無償提供の認知については、生理用品の購入・入手に苦労したことが「ある」人のうち、制度があるかが「分からない」は49.6%であった。また、制度を知っている人のうち、利用したことがある人は「17.8%」のみであった。市区町村での無償提供を知っていたが利用しなかった理由として「必要ないから（69.8%）」の他、「申し出るのが恥ずかしかったから（8.5%）」「人の目が気になるから（7.8%）」「対面での受け取りが必要だったから（6.2%）」等が挙げられた。

「『生理の貧困』が女性の心身の健康等に及ぼす影響に関する調査」結果概要

目次

I.　調査の概要 2
1.　調査の背景と目的 2
2.　調査の実施時期 2
3.　調査対象 2
4.　調査項目 2
II.　結果の概要 3
1.　生理用品の購入・入手に苦労している人の分布 3
2.　生理用品を購入・入手できないときの対処法 5
3.　身体的な健康状態 6
4.　精神的な健康状態 7
5.　社会生活への影響 8
6.　生理用品に関する公的支援制度の認知・利用状況 10

Ⅰ. 調査の概要

1. 調査の背景と目的

経済的な理由で生理用品を購入できない女性がいるという「生理の貧困」問題が顕在化しており、女性の健康や尊厳に関わる重要な課題となっている。「生理の貧困」への対応として、地方公共団体等による生理用品の提供やそれをきっかけとする相談支援などが進められているところであるが、「生理の貧困」にある女性の分布や心身の健康状態、社会生活への影響などについて詳細は把握されていない。

こうした状況を踏まえ、「経済財政運営と改革の基本方針 2021」（令和３年６月閣議決定）においては、全ての女性が輝く令和の社会を実現するために、「第５次男女共同参画基本計画」（令和２年 12 月閣議決定）及び「女性活躍・男女共同参画の重点方針 2021」（令和３年６月すべての女性が輝く社会づくり本部・男女共同参画推進本部決定）に基づき、コロナ禍で大きな影響を受けている女性への支援などの取組を推進することが明示された。

そこで本事業では、女性への健康支援の観点から、「生理の貧困」に関して、問題を抱える女性の分布や心身の健康状態、日常生活への影響等についての実態や現状を調べる「『生理の貧困』が女性の心身の健康等に及ぼす影響に関する調査」を実施した。

2. 調査の実施時期

令和４年２月３日～６日

3. 調査対象

調査会社への登録モニターを対象としたインターネット調査。全国の 18 歳から 49 歳の女性（回答時点から過去１年間のうち、生理があった人）3,000 人（回収ベース）を対象とした。

調査対象の抽出に当たっては、全国８ブロック（北海道・東北・関東・東京・中部・近畿・中国四国・九州沖縄）別に、性（女性のみ）・年齢の構成比に応じた割付を行った。

4. 調査項目

・回答者属性 ： 年齢、世帯年収
・「生理の貧困」の状況 ： 生理用品などの購入・入手状況、費用、不足している場合の対処、社会生活への影響
・心身の健康状態 ： 身体的健康、精神的健康
・公的支援制度の認知・利用状況 ： 支援の認知状況、利用状況、支援の障壁

等

II. 結果の概要

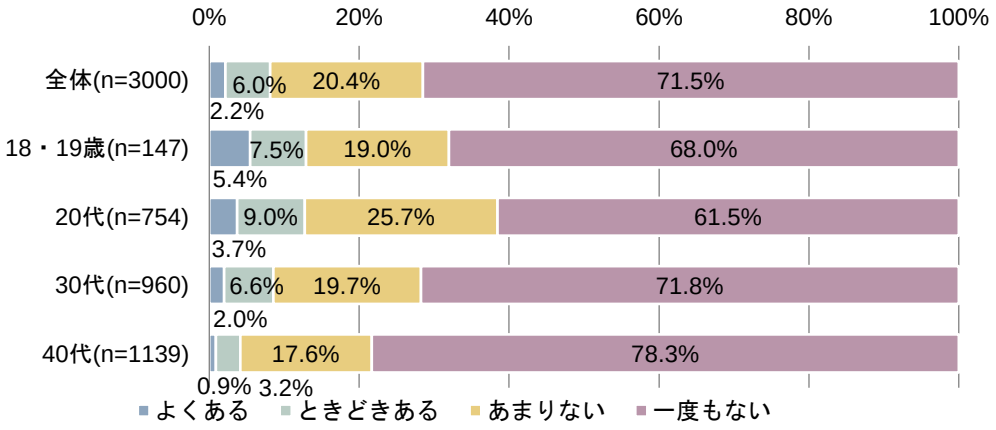
1.　生理用品の購入・入手に苦労している人の分布

「新型コロナウイルス感染症発生後（2020 年２月頃以降）から現在までの間に生理用品の購入・入手に苦労したこと」について、回答者全体では、「一度もない」が最も高く、71.5%となっていたが、「よくある」「ときどきある」（以下、「ある」）を合計した割合は、8.1%（244 人）となっていた。年代別にみると、18・19 歳、20 代以下で「ある」の割合が他の年代より高い（第 1-1 表）。

世帯収入別にみると、「100 万円未満」、「収入なし」、「100 万円～300 万円未満」の順に「ある」の割合が高くなっていた（第 1 - 2 表）。

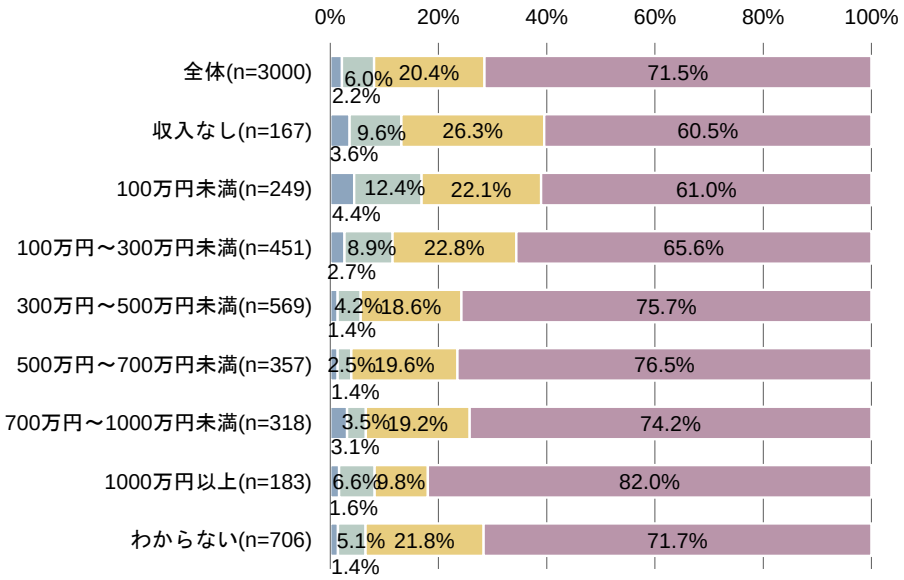
生理用品の購入・入手に苦労したことが「ある」と回答した人（244 人）を対象に、その理由を尋ねたところ、「自分の収入が少ないから（37.7%）」「自分のために使えるお金が少ないから（28.7%）」「その他のことにお金を使わなければならないから（24.2%）」等の経済的な理由が多く挙げられた（第 1-3 表）。

第 1-1 表
年代別　新型コロナウイルス感染症発生後から現在までに
生理用品の購入・入手に苦労したこと



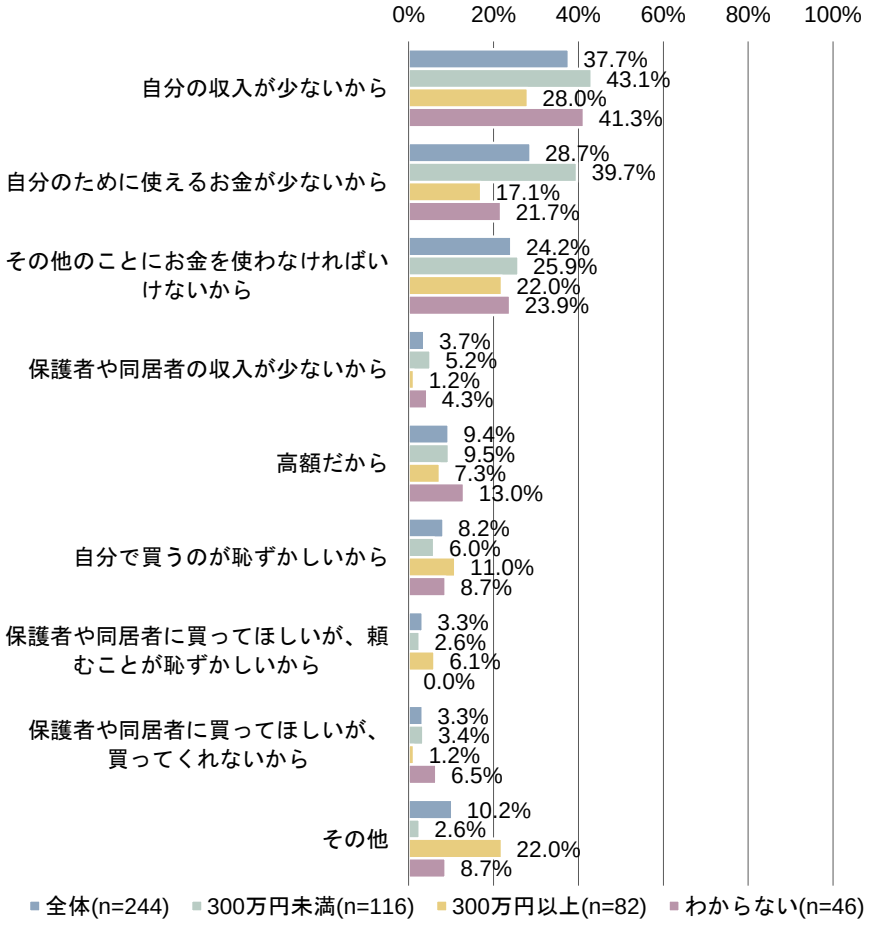
注）%表示の小数第２位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある

第 1-2 表
世帯収入別　新型コロナウイルス感染症発生後から現在までに生理用品の購入・入手に苦労したこと



注）%表示の小数第２位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある

第 1-3 表
世帯年収別　生理用品の購入・入手に苦労した理由：複数回答



2.　生理用品を購入・入手できないときの対処法

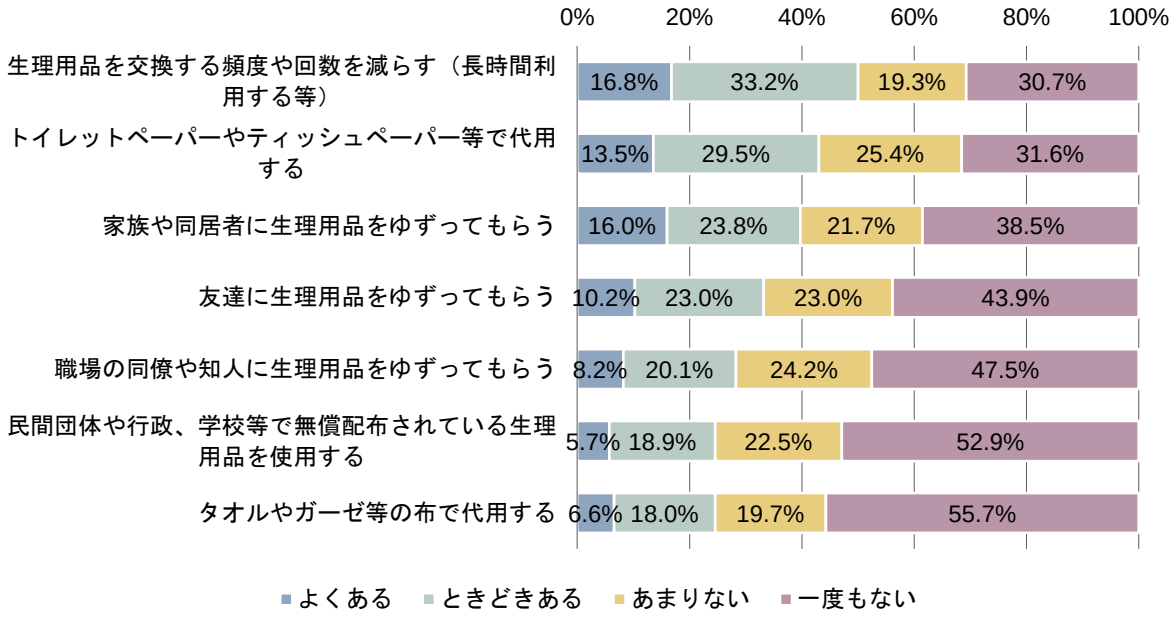
生理用品の購入・入手に苦労したことが「よくある」「ときどきある」と回答した人（244 人）に対して、そのときの対処方法として、以下の７つの対処方法をどの程度行っているかをそれぞれ尋ねた。

「よくある」「ときどきある」（以下、「ある」）を合計した割合が最も高いのは、「生理用品を交換する頻度や回数を減らす（長時間利用する等）」で、50.0％の回答者が「ある」と回答した。「トイレットペーパーやティッシュペーパー等で代用する」が 43.0％、「タオルやガーゼ等の布で代用する」が 24.6％だった。「家族や同居者」「友達」「職場の同僚や知人」に「生理用品をゆずってもらう」はそれぞれ３割から４割程度が選択していた。

「生理用品を交換する頻度や回数を減らす（長時間利用する等）」「トイレットペーパーやティッシュペーパー等で代用する」「タオルやガーゼ等の布で代用する」といった不衛生と考えられる対処法を１種類以上行っている人は 151 人で、生理用品の購入・入手に苦労したことがある人の 61.9％にのぼった。

「民間団体や行政、学校等で無償配布されている生理用品を使用する」ことが「あまりない」は 22.5％、「一度もない」が 52.9％で、「よくある」は 5.7％のみだった。

第２表
生理用品を購入・入手できないときの対処法



注）%表示の小数第２位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある

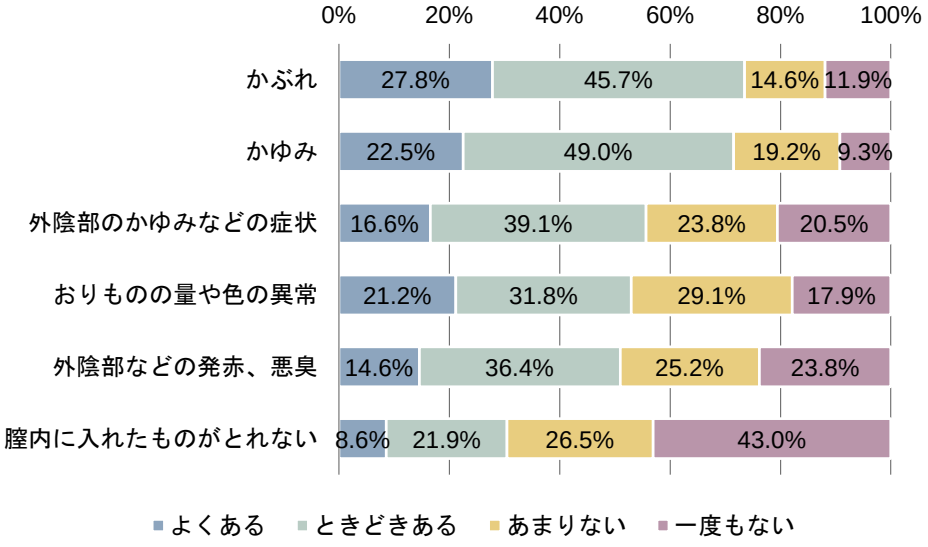
3.　身体的な健康状態

生理用品の購入・入手に苦労したときの対処法として、「生理用品を交換する頻度や回数を減らす（長時間利用する等）」「トイレットペーパーやティッシュペーパー等で代用する」「タオルやガーゼ等の布で代用する」を選択した回答者（151 人）に対して、生理用品を購入・入手できないときに、以下の６つの症状を経験したことがあるかを尋ねた。

「かぶれ」「かゆみ」については、それぞれ 27.8%、22.5%が「よくある」としており、「ときどきある」と合わせると、それぞれ 73.5%、71.5%の回答者が経験していた。また、「外陰部のかゆみなどの症状」「おりものの量や色の異常」「外陰部などの発赤、悪臭」は、「よくある」と「ときどきある」と合わせると、それぞれ 55.7%、 53.0%、51.0%と、いずれも半数以上が経験していた。

「膣内に入れたものがとれない」は 8.6%が「よくある」、21.9%が「ときどきある」と回答した。

第 3 表
生理用品を購入・入手できないときに経験した症状



注）%表示の小数第２位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある

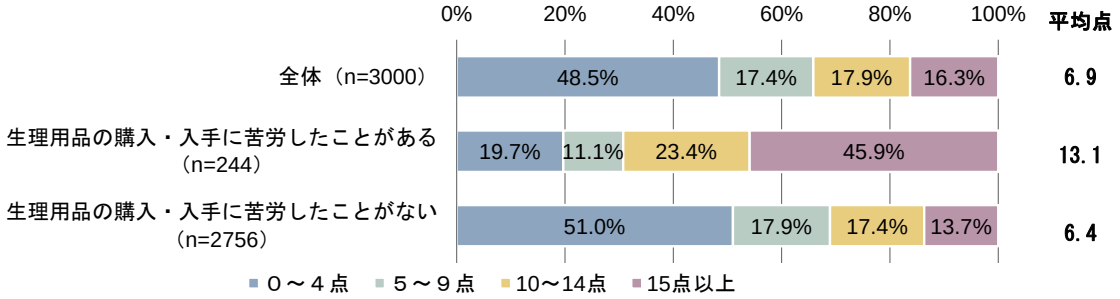
4.　精神的な健康状態

精神的な健康状態について、うつ病・不安障害などのスクリーニングに用いる尺度である「K6※１」を用いて測定した。合計得点が高いほど精神的な不調が深刻な可能性があるとされている。

K6 得点の平均値は、回答者全体では 6.9 点、生理用品の購入・入手に苦労したことが「よくある」「ときどきある」（以下「ある」）と回答した人は 13.1 点、「あまりない」「一度もない」（以下「ない」）と回答した人は 6.4 点で、生理用品の購入・入手に苦労した経験が「ある」人の得点が「ない」人の得点を大きく上回り、精神的な健康状態が悪い可能性が示唆された。

10 点以上※２ の割合をみると、生理用品の購入・入手に苦労した経験が「ある」人では 69.3%、「ない」人では 31.1%であった。

第４表
生理用品の購入・入手に苦労した経験の有無別の精神的な健康状態



注）%表示の小数第２位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある

（※１）K6 はうつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的に、Kessler ら（2003）によって開発された尺度である。日本語版は Furukawa ら（2008）。
「神経過敏に感じましたか」「絶望的だと感じましたか」「そわそわ、落ち着かなく感じましたか」「気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか」「何をするのも骨折りだと感じましたか」「自分は価値のない人間だと感じましたか」の６つの設問について、過去 30 日間の状況を５段階（「まったくない」（０点）、「少しだけ」（１点）、「ときどき」（２点）、「たいてい」（３点）、「いつも」（４点））で点数化し、合計得点が高いほど精神的な不調が深刻な可能性があるとされている。

（※２）厚生労働省「健康日本 21（第二次）」では、「気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている者の割合の減少」を目標に掲げているが、その達成状況を、国民生活基礎調査の「20 歳以上で、こころの状態に関する６項目の質問（K6）の合計点（０～24 点）における 10 点以上」の割合によって確認している。なお、令和４年度の目標値は 9.4%である。

Kessler, R.C., Barker, P.R., Colpe, L.J., Epstein, J.F., Gfroerer, J.C.,Hiripi, E., Howes, M.J, Normand, S-L.T., Manderscheid, R.W., Walters,E.E., Zaslavsky, A.M. (2003) Screening for serious mental illness in the general population Archives of General Psychiatry. 60(2),184-9.

Furukawa TA, Kawakami N, Saitoh M, Ono Y, Nakane Y, Nakamura Y, Tachimori H, Iwata N, Uda H, Nakane H, Watanabe M, Naganuma Y, Hata Y, Kobayashi M, Miyake Y, Takeshima T & Kikkawa T (2008) The performance of the Japanese version of the K6 and K10 in the World Mental Health Survey Japan. Int J Methods Psychiatr Res, 17, 152-8.

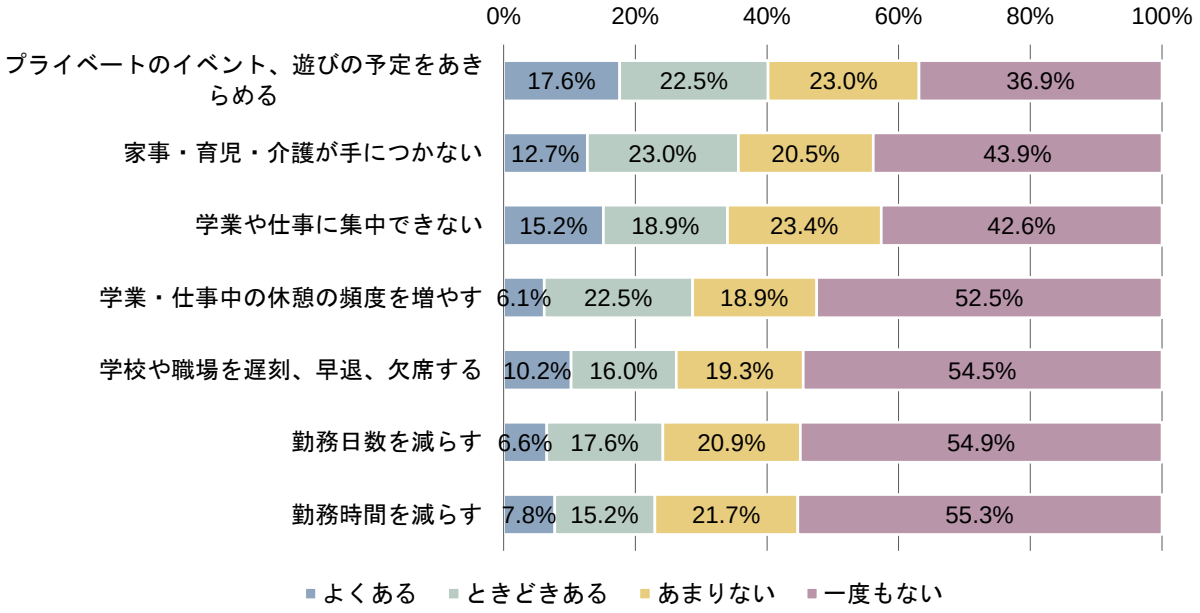
5.　社会生活への影響

生理用品の購入・入手に苦労したことが「よくある」「ときどきある」と回答した人（244 人）を対象に、新型コロナウイルス感染症発生以降及びここ６か月間に生じた、生理用品を購入・入手できないことを理由とする社会生活への影響について尋ねた。

新型コロナウイルス感染症発生以降については、「プライベートのイベント、遊びの予定をあきらめる（「よくある」「ときどきある」の合計 40.1%、以下同）」、「家事・育児・介護が手につかない（35.7%）」、「学業や仕事に集中できない（34.1%）」、「学校や職場を遅刻、早退、欠席する（26.2%）」などが挙げられた（第 5-1 表）。

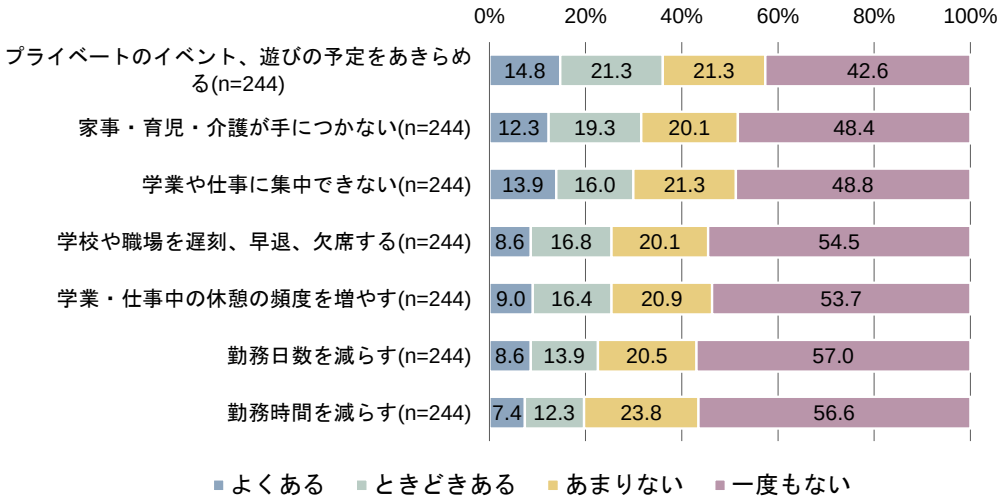
ここ６か月に限ってみても、「プライベートのイベント、遊びの予定をあきらめる（36.1%）」、「家事・育児・介護が手につかない（31.6%）」、「学業や仕事に集中できない（29.9%）」、「学校や職場を遅刻、早退、欠席する（25.4%）」とあまり改善がみられていない（第 5-2 表）。

第 5-1 表
新型コロナウイルス感染症発生後（2020 年２月頃以降）に、
生理用品を購入・入手できないことが理由で経験したこと



注）%表示の小数第２位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある

第 5-2 表
ここ６か月の間に、生理用品を購入・入手できないことが理由で経験したこと



注）%表示の小数第２位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある

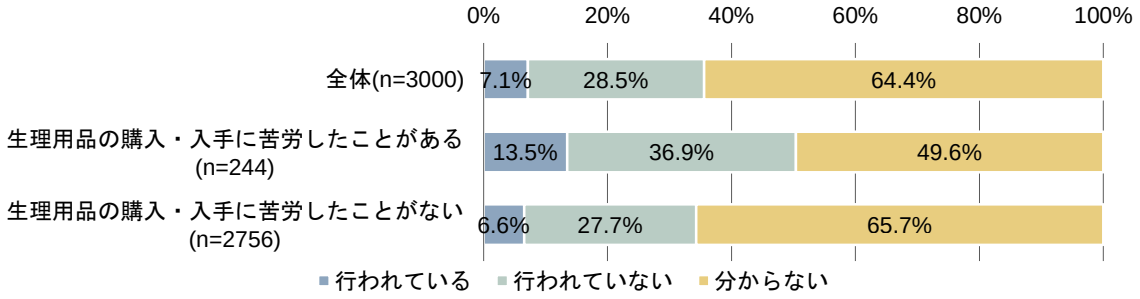
6.　生理用品に関する公的支援制度の認知・利用状況

生理用品に関する公的支援の認知について、「あなたのお住まいの地域では、生理用品の無償提供が行われていますか。無償提供を行っている団体がわからなくても、無償提供が行われていること自体を知っていたら『行われている』をお選びください」と尋ねたところ、回答者全体のうち「行われている」と答えたのは 7.1%だった。生理用品の購入・入手に苦労したことが「ある」人では、制度があるかが「分からない」と 49.6%が回答し、「行われている」と認識しているのは 13.5%のみだった（第 6-1 表）。

地域で生理用品の無償提供が「行われている」と認知している人（214 人）に、制度を利用したことがあるかどうかを尋ねたところ、利用したことがあるのは 17.8%だった。利用したことがあると回答した 38 人に利用した実施主体を尋ねたところ、「市区町村（63.2%）」「学校（15.8%）」「地域の民間団体（企業・NPO など）（15.8%）」などが挙げられた（第 6-2 表、第 6-3 表）。

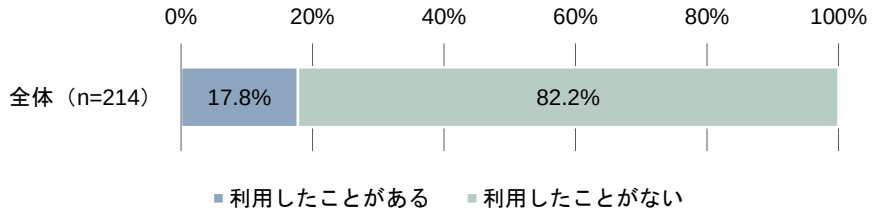
市区町村からの生理用品の無償提供が「行われている」と認知しており、かつ「利用したことがない」と回答した人（129 人）について、その理由を尋ねたところ、「必要がなかったから（69.8%）」に次いで、「自分が提供される対象に含まれなかったから（12.4%）」「申し出るのが恥ずかしかったから（8.5%）」「人の目が気になるから（7.8%）」「対面での受け取りが必要だったから（6.2%）」などが挙げられた（第 6-4 表）。

第 6-1 表
生理用品の購入・入手に苦労した経験の有無別
居住地域での生理用品の無償提供の認知状況

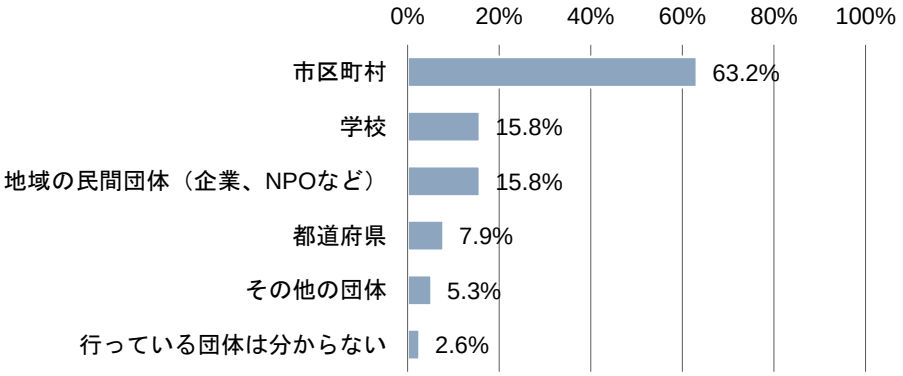
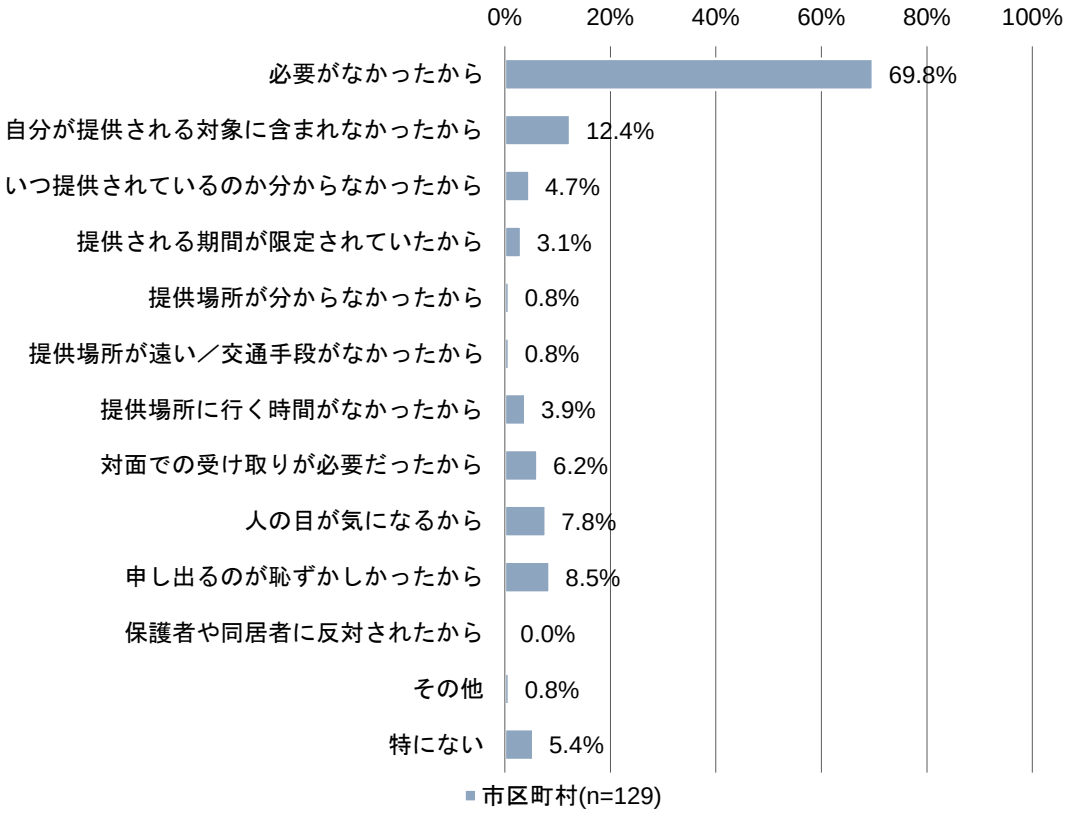


注）%表示の小数第２位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある

第 6-2 表
生理用品の無償提供の利用状況



第 6-3 表
利用した無償提供の提供主体：複数回答



第 6-4 表　市区町村で行われている生理用品の無償提供を知っていたが
利用しなかった理由：複数回答